英文解釈 L01 第 2 講 名詞のまとまりと修飾先をつかむ

学習目標

名詞句の中心語と修飾範囲を確定し、長い主語や目的語を一まとまりとして訳せる。

名詞句は外側と内側の二層で読む

解説

机の下に小さなかばんが 2 つある場面を考えよう。英文では、次のように表せる。

〈The two small bags 〔under 〈the desk〉〕〉 are mine .
S V C

〈The two small bags 〔under 〈the desk〉〕〉 are mine .
中心語 M V C

phrase “bags” / 中心語
M “under the desk” → phrase “bags” / under the desk は場所を示し、bags を説明する。

「机の下にある 2 つの小さなかばんは私のものだ。」

この文には bags（かばん）と desk（机）という 2 つの名詞がある。しかし、文が「私のものだ」と述べている対象は机ではなく、かばんだ。主語は The two small bags under the desk というまとまり全体であり、その内部で何を指すかを決める中心語は bags である。



図 1　机の下にある 2 つの小さなかばん。対象を思い浮かべ、英文の語句と対応させよう。

名詞句の内部には、中心語を詳しくする語が加わる。例えば、a small bag（小さなかばん）、my bag（私のかばん）、two small bags（2 つの小さなかばん）は、修飾する語が異なっても、中心語はそれぞれ bag、bag、bags である。冠詞・所有格・数量表現・形容詞を含め、どこまでが対象を表すまとまりなのかを捉えよう。

文中の役割も、中心語だけで判断してはいけない。

I bought 〈a small bag〉.
S V O

I　bought　〈a small bag〉 .
S　V　中心語
phrase “bag” / 中心語 / bag が中心語。a と small も含む名詞句全体は a small bag。

（私は小さなかばんを買った。）では、目的語 O は a small bag 全体であり、bag はその内部の中心語だ。一方、

〈My two small bags〉 are here .
S　V　M

〈My　two small bags〉 are here .
所有格　中心語　V　M
modifier “My” / 所有格 / My は所有者を示し、名詞句全体に関わる。
phrase “bags” / 中心語

〈My two small bags〉 are here .
S　V　M

〈My two small bags〉 are here .
中心語　V　M
phrase “bags” / 中心語 / two が数量を表し、bags が表すかばんの数を 2 つに限定する。

（私の小さなかばんが 2 つここにある。）では、主語 S は My two small bags 全体である。名詞句の長さが変わっても、外側の役割と内側の中心語は別々に捉える。

名詞の後ろに説明を加えることもできる。the bag under the chair（椅子の下にあるかばん）では、under the chair（椅子の下に）は bag を説明している。なお、the は文脈によって対象を特定する働きを持つが、いつも「その」と訳す必要はない。

構造を読むときは、名詞として働く大きなまとまりを〈〉、名詞を説明する形容詞のまとまりを〔〕、動詞や文の状況を説明する副詞のまとまりを ( ) で示す。これらは語の品詞そのものではなく、英文の中での働きを表す記号だ。

with 句は何を説明しているか

解説

同じ with でも、いつも同じ語を説明するわけではない。まず、次の 2 文を比べよう。

〈The teacher〔with glasses〕〉 is kind .
中心語　M　V　C
phrase “teacher” / 中心語
M “with glasses” → phrase “teacher” / with glasses は人物の特徴を表し、teacher を説明する。

「眼鏡をかけた先生は親切だ。」

この文の with glasses（眼鏡をかけている）は、teacher（先生）を説明している。どのような先生なのか、人物の特徴を加えるまとまりだ。with glasses は名詞句 the teacher with glasses の内部にあり、文の中心となる述語 is kind とは区別できる。

©ミライコーチング

次の文ではどうだろう。

Mia　cut　〈the bread〉　(with　〈a knife〉).
S　V　O　M
M “with a knife” → V “cut” / with a knife は cut という動作に使う道具を表す。

「ミアはナイフでパンを切った。」

ここで with a knife（ナイフで）は、bread（パン）の特徴ではなく、cut（切った）という動作を説明している。何を使ってパンを切ったのかを表す道具の情報だ。

この違いは、with の日本語訳だけでは決まらない。また、直前の語だけを見て修飾先を決めることもできない。前置詞句が名詞句の内部にあるのか、動詞が表す動作に関係するのかを、語順・語法・意味の整合性を合わせて判断する。

英文を読むときは、まず with 以下をひとまとまりとして捉え、次に「誰・何の特徴か」「どの動作に関係するか」を確かめよう。意味だけで先に決めず、文の組み立てと照らし合わせることが大切だ。

数や所有の情報も訳に戻す

解説

中心語を見つけると、何について述べているかが分かる。しかし、中心語だけを訳すと、誰のものか、いくつあるかという情報が抜け落ちることがある。

I　found　〈my notebook〉.
S　V　O
O “my notebook” / my は所有者を示す。notebook だけでなく所有の情報も保つ。

（私は自分のノートを見つけた。）

notebook（ノート）だけなら、何を見つけたかは分かるが、my（私の）が表す所有の情報は残らない。名詞句全体を訳すことで、誰のノートなのかまで保持できる。

I　bought　〈three apples〉.
S　V　O
O “three apples” / three が数量を表すため、りんごの数も訳に反映する。

（私はりんごを 3 個買った。）

中心語 apples（りんご）だけでは、数量を表す three（3 個の）の情報が消えてしまう。名詞句の範囲を確定したら、中心語を手掛かりにしつつ、数量や所有などの必要な情報も訳へ戻そう。

冠詞 the も、いつも「その」と訳すわけではない。The apples are fresh.（りんごは新鮮だ。）のように、文脈で対象が分かっていれば、日本語では「その」を省いて自然に表せる。大切なのは語を一つずつ日本語に置き換えることではなく、原文が伝える情報を保つことだ。

©ミライコーチング

存在するもののまとまりを捉える

解説

既習の there is / there are（〜がある、〜がいる）でも、名詞句の範囲と中心語を確かめる操作は変わらない。

There are 〈two small boxes〉.
V　存在するものの名詞句
phrase “two small boxes” / 存在するものの名詞句

There are 〈two small boxes〉.
V　中心語
phrase “boxes” / 中心語

（小さな箱が 2 つある。）

この文では、何が存在するのかを表すまとまりが two small boxes（小さな箱が 2 つ）であり、その中心語は boxes（箱）だ。two（2 つの）は数量、small（小さな）は箱の特徴を表している。

ここで there を機械的に「そこ」と訳すと、存在を述べる文の意味を捉えにくくなる。まず存在するものの名詞句を見つけ、その範囲と中心語を確かめよう。この講では、そのまとまりを「存在するものを表す名詞句」と呼べば十分であり、文法上の分析名を一つに決めつける必要はない。

1

語注：several：いくつかの。bookshelves：bookshelf（本棚）の複数形。entrance：入口。

Several tall bookshelves near the library entrance stand along the wall.

a. 主語となる名詞句の範囲と、その中心語を一組で示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

解説

a. 名詞句全体は Several tall bookshelves near the library entrance、中心語は bookshelves である。

主語は bookshelves だけではない。Several（いくつかの）、tall（背の高い）、near the library entrance（図書館の入口の近くにある）が本棚についての情報を加えている。library や entrance も名詞だが、前置詞 near の後にある名詞であり、主語の中心語ではない。

〈Several tall bookshelves 〔near 〈the library entrance〉〕〉 stand
S　V
(along 〈the wall〉).
M
M “along the wall” → V “stand”

〈Several tall bookshelves〔near 〈the library entrance〉〕〉 stand (along 〈the wall〉).
中心語　M　V　M

phrase “bookshelves” / 中心語
M “near the library entrance” → phrase “bookshelves”
M “along the wall” → V “stand”

b.

直訳

図書館の入口の近くにあるいくつかの背の高い本棚が、壁に沿って立っている。

満点の訳

図書館の入口近くには、背の高い本棚が数台、壁沿いに並んでいる。

2

The man with a hat on his head is holding a letter.

a. 前置詞句 with a hat on his head が説明している語を、英文中から示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

解説

a. man である。

with a hat on his head は、帽子を頭にかぶっているという人物の特徴を加えている。is holding a letter は「手紙を持っている」という述語であり、前置詞句がその動作の道具を表しているわけではない。語順だけでなく、句全体がどの語についての情報を加えているかを確認する。

〈The man〔with 〈a hat〔on 〈his head〉〕〉〕〉 is holding 〈a letter〉.
中心語　M　V　O

phrase “man” / 中心語
M “with a hat on his head” → phrase “man” / with a hat on his head は人物の特徴を説明する。

b.

直訳

頭に帽子をかぶった男性は、手紙を持っている。

満点の訳

帽子をかぶった男性が、手紙を手にしている。

1

My friend's younger brother waits outside our school every morning.

a. 主語となる名詞句の範囲と中心語を一組で示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

2

語注：chose：choose の過去形（選んだ）。

We chose three small baskets at the shop.

a. 目的語となる名詞句の範囲と中心語を一組で示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

3

語注：several：いくつかの。empty：空の。

There are several empty boxes.

a. 存在するものを表す名詞句の範囲と中心語を一組で示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

4

語注：chose：choose の過去形（選んだ）。

Nina chose a book about animals for her class.

a. 前置詞句 about animals が説明している語を英文中から示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

5

語注：drew：draw の過去形（描いた）。

Leo drew a simple map with a pencil.

a. 前置詞句 with a pencil が説明している語を英文中から示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

6

語注：read：現在形・過去形とも綴りは read。過去形の発音は現在形と異なる。

The sisters read a short letter after dinner.

a. 前置詞句 after dinner が説明している語を英文中から示せ。 b. 英文全体を日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

a. 主語となる名詞句全体は My friend's younger brother、中心語は brother である。

My friend's（私の友人の）が所有関係を、younger（年下の）が年齢の関係を表し、どちらも brother を説明している。outside our school は待つ場所、every morning はその動作が行われる時を表すため、主語の範囲には含まれない。

〈My friend's younger brother〉 waits (outside 〈our school〉) (every morning).
S V M M

M “outside our school” → V “waits”
M “every morning” → V “waits”

〈My friend's younger brother〉 waits (outside 〈our school〉) (every morning).
中心語 V M M

phrase “brother” / 中心語 / My friend's は友人との兄弟関係を示し、younger はその友人より年下であることを表す。
M “outside our school” → V “waits”
M “every morning” → V “waits”

b.

直訳

私の友人の弟は、毎朝、私たちの学校の外で待っている。

満点の訳

友人の弟は毎朝、私たちの学校の外で待っている。

2

a. 目的語となる名詞句全体は three small baskets、中心語は baskets である。

three（3 つの）が数量を、small（小さな）が大きさを表し、どちらも baskets を説明している。動詞 chose（選んだ）の対象は、かご全体を表すこの名詞句である。at the shop は選んだ場所を表す。

We chose 〈three small baskets〉 (at 〈the shop〉).
S V O M

M “at the shop” → V “chose” / 通常は選ぶ場所を表す。文脈によっては店にあるかごを説明する解釈も可能。

We chose 〈three small baskets〉 (at 〈the shop〉).
S V 中心語 M

phrase “baskets” / 中心語
M “at the shop” → V “chose” / 通常は選ぶ場所を表す。文脈によっては店にあるかごを説明する解釈も可能。

b.

直訳

私たちは店で 3 つの小さなかごを選んだ。

満点の訳

私たちはその店で、小さなかごを 3 つ選んだ。

3

a. 存在するものを表す名詞句全体は several empty boxes、中心語は boxes である。

several（いくつかの）が数量を、empty（空の）が箱の状態を表し、中心語 boxes を説明している。存在するものを表すまとまりとして全体を捉え、中心語だけに縮めない。

There are 〈several empty boxes〉.
V 存在するものの名詞句

phrase “several empty boxes” / 存在するものの名詞句

There are 〈several empty boxes〉.
V 中心語

phrase “boxes” / 中心語

b.

直訳

いくつかの空の箱がある。

満点の訳

空の箱がいくつかある。

4

a. book である。

about animals（動物について）は、本の内容を説明している。about の後ろには animals が続き、動物についての本という意味になる。また、for her class（彼女のクラスのために）は、本を選ぶ目的を示すとも、授業で使う本という用途を示すとも読める。中心課題の about animals は、本の内容を説明している点を押さえよう。語順だけでなく、それぞれの句が文中でどのような意味を加えるかを確かめる。

Nina (S) chose (V) 〈a book (中心語) 〔about animals (M)〕〉 (for 〈her class〉 (M)).

phrase “book” / 中心語
M “about animals” → phrase “book”
M “for her class” → V “chose” / for her class は選ぶ目的にも、本の用途にも読める。

b.

直訳

ニナは、彼女のクラスのために、動物についての本を選んだ。

満点の訳

ニナはクラスのために、動物についての本を選んだ。

5

a. drew である。

with a pencil（鉛筆で）は、地図の特徴ではなく、地図を描く動作に使った道具を表している。a simple map（簡単な地図）は描いた対象であり、鉛筆は描くために使ったものだ。直前の名詞だけで修飾先を決めず、道具と動作の関係から判断する。

Leo (S) drew (V) 〈a simple map (O)〉 (with 〈a pencil〉 (M)).

M “with a pencil” → V “drew”

b.

直訳

レオは鉛筆を使って、簡単な地図を描いた。

満点の訳

レオは鉛筆で簡単な地図を描いた。

6

a. read である。

after dinner（夕食後に）は、手紙の特徴ではなく、読むという出来事がいつ行われるかを表している。a short letter（短い手紙）は読んだ対象であり、夕食後という時間の情報は動作全体に関係する。

なお、read は現在形でも過去形でも綴りが同じである。この英文だけでは、姉妹が普段手紙を読むことを述べているのか、過去に読んだことを述べているのかを一意に決められない。文脈に合う現在・過去のどちらの訳も認められる。

〈The sisters〉 read 〈a short letter〉 (after dinner).
S V O M

M “after dinner” → V “read”

b.

直訳

姉妹は夕食後に短い手紙を読む。／姉妹は夕食後に短い手紙を読んだ。

満点の訳

姉妹は夕食後に短い手紙を読む。／姉妹は夕食後に短い手紙を読んだ。